

大型データセンター誘致可能性調査業務（フェーズ2）委託仕様書（案）

1 業務名

大型データセンター誘致可能性調査業務（フェーズ2）

2 業務の目的

本業務は、前年度に実施した大型データセンター誘致可能性調査（フェーズ1）の結果を踏まえ、本地域における大型データセンター誘致の実現可能性および事業化可能性をより具体的に検証することを目的とする。

特に、フェーズ1で整理した需要規模別整備条件、候補地評価結果および候補地別整備課題を前提として、

- ・電力供給スキームの比較評価
- ・誘致可能性の高い事業者層の把握
- ・地域への経済波及効果の分析
- ・地域への波及効果を高める事業スキームの検討

を実施し、大型データセンター誘致に向けた事業化判断に必要な基礎資料を作成するものとする。

3 履行期間

契約締結日から令和10年3月31日まで

4 業務内容

（1）電力供給スキーム調査

以下のスキームについて、実現可能性を比較検討すること

【モデル】

- ①一般供給モデル
- ②コーポレートPPAモデル
- ③自営線供給モデル

【調査項目】

- ①契約形態
- ②電力コスト・電気料金
- ③契約期間
- ④受電開始までの期間
- ⑤必要設備の概要、工期、費用（一般供給モデルの系統線の増強を含む）
- ⑥将来的な電力容量の増設の可否、また増設完了までの期間、費用
- ⑦実現に向けた課題、条件（制度対応、関係者調整等）

⑧実現可能性の評価および実現時期の見通しならびに評価の根拠
〈以下、自営線供給モデルのみ〉

⑨自営線整備可能性

(技術的な課題、実現可能性)

⑩電力供給可能性

(現行制度における適用関係の明確化および必要な措置の検討)

【評価の観点】

- ・ 技術的実現性
- ・ 制度的実現性
- ・ 事業的実現性
- ・ 経済性
- ・ 供給安定性

(2) 需要発掘調査(誘致可能性の高い事業者層の把握)

国内外のデータセンター市場動向について調査すること

また、誘致対象となり得る企業等について、ヒアリング等も通じて、立地要件や投資規模、立地決定要因などを整理すること

【市場動向に関する調査内容】

- ・ AI 向けデータセンター需要
- ・ ハイパースケールデータセンター整備動向
- ・ 国内外主要立地事例
- ・ 電力需要見通し
- ・ データセンター立地要件分析
- ・ 国内競合地域分析

【想定誘致対象】

①ハイパースケーラー

- ・ Microsoft
- ・ Google
- ・ Amazon Web Services
- ・ Meta
- ・ Oracle

②コロケーション事業者

- ・ Equinix
- ・ Digital Realty
- ・ CyrusOne
- ・ NTT GDC

- ・ MC デジタルリアリティ
- ③AI インフラ事業者
 - ・ GPU クラウド事業者
 - ・ AI 計算基盤事業者

【誘致対象への調査内容】

- ・ 想定需要規模
- ・ 立地要件
- ・ 電源ニーズ
- ・ 通信回線ニーズ
- ・ 想定立地時期
- ・ 立地決定要因
- ・ 福井県に対する評価

(3) 地域振興効果分析

データセンター立地による地域への波及効果を分析すること

【分析項目】

- ・ 投資誘発額
- ・ 生産誘発額
- ・ 雇用創出効果
- ・ 税収効果
- ・ 産業集積効果

(4) 事業スキーム検討

データセンター立地に伴う地域への経済効果を高めるための事業スキームとして、以下の事業モデルを比較すること

【モデル】

- ・ 民間主導型
- ・ 第三セクター型
- ・ 官民連携型
- ・ 特定目的会社型

5 成果品

以下のものを提出すること

- ①調査報告書（紙媒体 1 部および電子データ）

調査報告書には次のものを含めること

- ・ 電力供給スキーム比較・評価表

（実現可能性評価、評価根拠、実現時期の見通しを含む）

- ・ 需要発掘調査結果
- ・ 地域振興効果分析結果
- ・ 事業スキーム提案書

②調査報告書の概要版（電子データ）

6 留意事項

受託者は、フェーズ1 成果品との整合を確保しながら検討を進めるものとする。

また、各検討項目については、評価結果のみならず評価過程および判断根拠についても整理し、第三者による検証が可能な形で成果品を作成するものとする。